

一日も早い北方墓参を再開を 元島民ら関係者が参議院の特別委員会に要請

納沙布岬の視察のあと、参議院の
沖北委員会は二ホロで元島民ら関
係団体、行政関係者などと懇談。
千島連盟の松本理事長は元島民
の平均年齢が88歳を超える中、悠
長に待っている時間は無いと北方
墓参の早期再開を強く求めました。
また返還運動を次世代に引き継い
でいくためにも北対協の融資制度
の拡充や、国内の関心が薄れる中、
国内外への世論喚起や情報発信の
強化など対策の充実を強く要望さ
れていました。

7月31日、参議院の沖北特別委員会の国会
議員らが根室を訪問し、現地の視察や元島民
や行政機関等との意見交換を行いました。



今回の参議院特別委員会の視察
に共産党から参加した紙智子議員
は、返還要求運動を3世4世に繋
いでいくために、求められる対策は
何かを質問。千島連盟の鈴木副理
事長は若い世代が行動しやすい環
境を作っていくこと、具体的には要
望している融資制度の拡充や3世
4世の『語り部』に対するフォロー、
学校教育での対策などが必要と話
されました。



続く行政関係者との懇談でも外
交交渉や安全操業の継続など様々
な要望や意見が述べられていました。
意見交換の中で紙議員は北方基
金の原資100億円を取り崩して
きたことに対する今後の課題を尋
ねました。北隣協会会長である石垣
根室市長は財源確保のためには、沖
縄県のような新たな交付金の制度
としていくことが必要であることを
再度説明しました。

そのほか紙議員は標津町の北方領
土館の整備を国会質問したことに
触れ、その後の内閣府の対応がどの
程度進んでいるのかについて質問し
ました。標津町の山口町長は内閣
府と町が事務レベルで話し合ってい
るが、まだ具体的なものになって
いない状況と報告していました。

根室市福祉団体スポーツ交流会が 今年も賑やかに開催されました



8月4日、「第31回根室市福祉団体ス
ポーツ交流会」が市青少年センターで開
催され、市内の障害福祉事業所や福祉団
体の方々が参加されました。

市内の障害福祉団体などで構成される
実行委員会と根室市心身障害者(児)団
体連絡協議会の共催で行われ、根室ライ
オンズクラブの皆さんや根室市社会福祉
協議会の方々が、当日も早くから準備・
運営など尽力されておられました。

参加者は風船割りゲームや灯油缶を叩
いてリレーする「ガンガンたたきリレー」や
「紅白玉入れ」など、競技に一生懸命取り
組んでました。

コロナ禍から昨年4年ぶりに再開し、今
年も無事にこうした行事が行われたこと、
長い間継続して取り組まれている関係者
皆さんの努力に本当に頭が下がります。

今年のサンマ来遊量は低水準(昨年と同水準)と予測

水産業講演会「水産関係者との意見交換会」

8月5日、一般社団法人漁業情報サービスセン
ター主催の水産業講演会「水産関係者との意見交換
会」がベルクラシック根室で開催されました。サンマ
やマイワシ、サバの海況・漁況予報や資源の見通し等
について、市内水産関係者等に解説されました。

根室の経済を支える
サンマは不漁が続く昨
年度の全国の水揚量は
2万4433tだった
そうです。過去最低
だった前年より回復
しましたが、依然とし
て低水準が続いていま
す。過去2008年に
は34万3225tが記
録されています。

今年は8月10日に一
斉解禁となりますが、
今後の見通しはどの
うのでしょうか。



水産研究・教育機構 水産資
源研究所の宮本氏は「2024
年度サンマ長期漁海況予報」に
ついて、6・7月に実施した調
査結果から、今年の漁期の来遊
量は海洋環境等の状況もあり
昨年と同様の低水準となるこ
と。8月・9月は公海に漁場
が形成され、10月には道東海域
や北方四島周辺および隣接す
る公海に来遊し、漁況は一時的
に向上するという見通しを説明
されていました。

このほか同研究所の由上氏は
「マイワシ・マサバの資源動向」に
ついて、マイワシの資源量は20
20年以降は横ばい、マサバに
ついては日本のみならず中ロで
も漁獲が減少に転じており、資
源量は減少傾向にあることを
解説していました。